

小金井市立本町高齢者在宅サービスセンター  
第1回 地域密着型デイサービス運営推進会議 報告書

開催日時	平成28年10月17日(月) 14時30分～15時30分
開催場所	本町高齢者在宅サービスセンター3F ボランティア室
参加者	ご利用者家族 : 利用者ご家族A様 : 利用者ご家族B様 地域住民代表 : 地元商店会代表C様 : ボランティア代表D様 所在地管轄職員 : きた地域包括支援センター職員(以下:包括職員) 本町センター職員 : センター長 : 認知症デイサービスリーダー(生活相談員) : 一般型デイ生活相談員
司会進行	認知症デイサービスリーダー(生活相談員)
書記	一般型デイ・生活相談員

【議事録】

1. 開会の挨拶

2. 委嘱状授与・自己紹介

3. 事業報告

(1) 平成27年度実績報告(平均利用率、市の受託事業)

- 事業計画に基づく取り組みの説明(センター長)  
権利擁護・虐待防止、感染症対策、事故災害対策など ※詳細は配布資料参照
- 認知症対応型デイサービスの概要説明
  - ・「活動の流れ」の説明
  - ・「活動の実際」(=写真)を液晶プロジェクターでスクリーンに映して説明
  - ・「地域交流」、「認知症高齢者の食事への取り組みの紹介、家族交流会の紹介

4. 意見交換・質疑応答

- 包括職員
  - ・季節ごとに行事に取り組んでいて、ご利用者が楽しんでいる様子が伝わった。
  - ・同じ認知症対応型デイサービスでも桜町センターは苦戦していると伺っていると伺っている。利用率を向上させるうえで参考にできることがあればノウハウをお聞きしたい。
- A様
  - ・認知症後期になっていて目が離せない毎日で、家族だけでみていくのは限界がある。
  - ・認知症デイサービスには支えられてに感謝している。
  - ・家族はデイサービスに行ってもらえると助かるが、本人の気持ちがどうしても後回しになってしまう。
  - ・本人にとっても、認知症デイサービスが行く価値のある場所になってほしいと希望している。

- ・家族はとても疲れてしまっているのナーバスになっていることも多いが、広い心で受け止めてもらいたい。
  - ・センターの人から言われたことが家族の希望と違う時、お世話になっている立場でそれを伝えてよいか悩んでしまったことが最初のうちあった。
- B様
  - ・春からお世話になっている。一人で出かけて家に戻れなくなることが続き、主治医の先生にもデイを勧められていたが初回利用の日までずっと父は無理だと思っていた。
  - ・本町センターを紹介してもらい、だめもとで利用してみるようになったが、初日にすんなり送迎車に乗ってもらえたので拍子抜けするくらい驚かされた。
  - ・それ以後、昼間は本町に出かけているときは安心していられる。
  - ・本人は自宅が大好きなので、できる限りずっとこちらにお世話になって、写真の笑顔がこれからも続けばと思う。
- C様
  - ・お姑さんの介護をしていたので、家族の大変さがよくわかる。
  - ・昔は相談する所もなかった。ショートステイなどもなかった。
  - ・要望はボランティアの立場で見ている職員が大変そうなのが分かるので、職員数が増えればいいと思う。
  - ・お風呂も檜のお風呂があるといい。また、家族介護者がバスで旅行に行くなどの機会があればいいと思う。
- D様
  - ・デイサービスとは、こういうことをやっているというのが写真を見たり説明を受けてよく分かった。
  - ・センターのお祭りは商店会なども含め近場同士で集まって出来ればいいと思う。
  - ・個人商店は昼も夜も地元に住るので、認知症高齢者の方の見守りが出来ると思う。
  - ・どういったニーズがあるかをまず知るのが大切。
  - ・情報をもらえれば商店会も協力していきたい。

## 5. まとめ

- 認知症デイリーダー（生活相談員）
  - ・入浴は最大枠で対応しているが待機者が多いのが現状。
  - ・介護されているご家族のストレスの感じ方は十人十色で介護うつになる方もいらっしゃる。
  - ・家族会を通してご家族の声を職員につなげ、職員は利用者につなげていけるよう輪を作っていきたい。
- センター長
  - ・初めての運営推進会議で様々な情報をてんこ盛りにした関係で、本日は十分に意見交換ができない面もあり申し訳なかった。
  - ・しかし、センターがどういうところかまずご理解いただかないと先に繋がるものも繋がらないと考え、今回は情報提供をメインとさせていただいたことをご了解いただきたい。
  - ・ご利用者をお預かりする立場で、サービスのあり方などについて何か注文すると利用しづらくなることはあってはならないことだ。

- 当センターは、建前と本音が違うのではなく、本音で皆さまとお付き合いさせていただきたいと考えている。
- スタッフ数は募集をかけてもなかなかこないのが実情。福祉や介護の世界は苦しい、つらいという捉え方が一般社会の理解としてあるようだ。
- 私たち現任者の役割は、日々のケアをこなすだけではなくお金や物資の豊かさだけに価値の基準を置くことから、子育てに価値が見出せているように介護にも尊い価値があることを明らかにすることができるかにある。
- その第一歩として皆様とのこのような話し合いがあるので、ここから少しずつ分かち合う場を拡げてゆきたい。ぜひお力を貸してほしい。

6. 次回開催予定 平成29年3月13日（月）14時半～

以上